

平成11年度総会御案内

日時 6月19日(土) 午後3時 場所 母校 本庄高校視聴覚教室
御招待予定恩師 石井 薫・高橋 甲 両先生
内容 (1) 午後3時 通常総会 (3) 午後5時 懇親会 (会費3,000円)
(2) 午後4時 記念音楽会
演奏 本高吹奏楽部
指揮 吉野雅文
① 場所 埼玉グランドホテル本庄 (本庄駅南口)
② 交通 母校よりの送迎バスの用意あり

柏陵

発行
県立本庄高校同窓会
会長 戸谷全克
事務所 本庄市中央1-7-21
戸谷 八 内
☎0495(22)2008



「松は緑に八千草匂い」と旧
制中学校歌にあります。母



同窓会長 戸谷全克
(高一回卒)

「石の上にも三年」

校の木々も日毎に緑を増して
参りました。会員の皆様には
ご健勝にてご活躍の事とお慶
び申し上げます。

さて、昨年度私達一回卒が
実行致しました「卒後五十周
年記念同期会」

「柏朋」を今年の
三月に発刊致し
ましたが、今年
は一千年代最後
の節目の年であ
ります。このよ
うに来年は二千
年、再来年は二
十一世紀最初の
年とそれぞれ意
義ある年に当た
ります。それを
キャッチフレー
ズに二回卒、三
回卒の方々が続
けて下されば、

「石の上にも三年」と云うこ
とわざと通り後輩たちにも必ず
受け継がれて行くものと確信
致します。

処で、昨今の経済情勢の変
化に対応するために、会費納
入方法も今回から一枚の振込
用紙で年会費又は終身会費を
会員が選択して納付する方法
に変えさせて頂きました。又、
六月の総会には年会費の改訂
案を上程させて頂きます。金
利の低迷が続くようだと、
従来の終身会費を主とした方
法より年会費納入推進へと軸
足を移すことも考慮すべきで
はないかと思案致しておりま
す。ご理解とご協力の程お願
い申し上げます。

図書寄贈

発行者 戸谷全克(高一)
「柏朋」
「本町自治会史」
「矢代和正(高6)」

平成11年三月卒業 同窓会幹事 一覧(全・定)

○は学年幹事

- | クラス | 氏名 | 住所 |
|------------|------------|----|
| 1 | 田中 幸宏(熊谷市) | |
| 2 | 川松亜希子(深谷市) | |
| 3 | 大屋 祥一(深谷市) | |
| 森 飛鳥(神川町) | | |
| 嶋崎 健太(上里町) | | |
| 齋藤由香里(深谷市) | | |

本部・支部役員

4	貫井 健一(神泉村)	仲 町 中田 脩一 中19
5	中澤やよい(深谷市)	本 町 矢代 和正 高6
6	小暮 旭(本庄市)	南 町 村田敬次郎 中22
7	○荒井真理子(本庄市)	台 町 松本 敬一 定1
8	山内 美穂(本庄市)	末 町 野枝 直治 高5
9	堀内 真吾(美里町)	諏訪町 井上 昌幸 中22
10	関根 梨恵(本庄市)	朝日町 内藤 明 高3
11	三澤 拓也(本庄市)	藤 田 宮崎 興憲 高4
12	堀原 邦夫(美里町)	仁 手 福島 好正 高3
13	黒澤 愛美(熊谷市)	旭 亀田 本二 高4
14	今泉 浩行(妻沼町)	北 泉 塩原 暁 高5
15	荒川 彩(児玉町)	児 玉 吉田 建治 高2
16	定 金井 実(上里町)	美 里 春山 一三 高3
17	神 川 金井 久直 中22	
18	神 泉 秋山 欣彦 高28	
19	上里神保原 森村 信行 高14	
20	上里賀美 小野 英彦 高14	
21	上里七本木 斎藤 勝次 高14	
22	上里長幡 小柳 喜政 高10	
23	岡 部 茂木 肇 中14	
24	寄 居 松本 恭二 高2	
25	深 谷 清水 實 中19	
26	熊 谷 西村 茂雄 中17	
27	伊勢崎 小池 久 高10	
28	新 町 高嶋 唯志 高11	
29	東 京 富田 重皓 高6	
30	本庄市役所 戸谷洋一郎 高14	
31	エーザイ 北川 茂 高11	
32	沖電気 村岡 徳英 高15	
33	児玉郡市教職員 宮部 彰 高14	





柏陵消息

青春の日々

学校長 郷原康一



高校第一回卒業生が、卒業後五〇周年記念誌として「柏朋」を発行されました。九二ページからなるたいそう立派な冊子で、私もそれを頂戴し、また、本校図書館にもご恵贈いただきました。

表紙を開くと、画家として活躍中の黒沢信男氏の、風格のある、いかにも大正時代の建築物という木造の学び舎の、ペン画の屏絵がまず目に飛び込んできます。さらに授業風景、七柏園などの懐かしい写真、続いて卒業生二名の語る当時の学校生活が、五〇年という年月を経ているとは思えぬほど生き生きと、昨日のことのように語られています。その中には軽井沢剛健行軍についての思い出が五編もあり、青春をかけた日々の、苦くも楽しい記録となっています。

在学当時を語る柏陵ニュー

スの抜粋や文芸作品に、若き日の生のありようを忍びながら、翻って今の高校生に目を転じてみます。平成の今日、本庄高校で学ぶ生徒たちも、当然、当時の青年と同じように勉学に励み、困難に挑み、自らの人生を楚楚として生きていくに違いありません。戦中戦後の混乱した時代と、二世紀を目前に控え、宇宙旅行も夢ではない時代という、二つの時代の違いを越えて、いつの時代にも若者は、自らの生を精一杯に生きるといふ、そういう姿が学園にはあります。

学校週五日制、授業内容の大幅な改正という大きな時代のうねりの中で、私達は本高生が、いつそう自らを磨き、社会に貢献できる人材として育つよう学校を上げて取り組む所存です。

同窓生の皆様には、母校に對するご支援に厚く感謝申し上げますとともに、あわせて同窓生の皆様のますますのご健勝、ご発展と、さらなるご活躍を心よりお祈り申し上げます。

母校近況

全日制生徒会長

笹井 卓



暖かくなってきた今日のごろ、皆様いかがお過ごしでしょうか。僕たち本庄高校生徒会は、新入生歓迎ハイキングを実施するための準備を進めています。

新一年生が入学して約一ヶ月が過ぎようとしています。皆様が高校一年生の時はどんな思いだったでしょうか、きっと心が躍るような気持ちだったでしょう。

これから、生徒総会や柏樹祭や球技大会など、いろいろな行事がありますが、本校らしくがんばっていきましょうと思います。

定時制生徒会長

米田 信子

新入生を迎え、新鮮な気持ちで、新たな学校生活が始まりました。

私達定時制課の学校生活は全日制とは違い働きながら学ぶというところです。働きながら学校に通い勉強するというのは決して楽なことではありません。しかし、楽ではないぶん自分にとってプラスになることをたくさん得ることができ、たくさん学べることを私は思っています。

新一年生のみなさんはこの生活に慣れるまでは大変だと思いますが、頑張ってくださいと思います。そして、私は生徒会長として、自分のため、学校のためにより良い学校づくりをしていきたいと思っています。

(写真は本人の希望で掲載しません)

音楽会案内

●バリトン 浦野野行
本高33回卒業
東京芸術大学声楽科卒業
日本音楽コンクール三位入賞
日露音楽家協会所属
曲 目
・林 光 作曲 他
・四つの夕暮の歌

●バス 浦野野成
本高30回卒業
東京芸術大学声楽科卒業
ミュンヘン音楽大学非常勤講師
曲 目
・シューベルト作曲
・白鳥の歌より 愛のたより 他

場 所 玉グランドホテル本庄
日 時 8月28日(土) PM7:00
入 場 料 2,500円
後 援 本庄音楽鑑賞会
本高同窓会

平成十二年度
当初人事異動

(敬称略)

【退職】

教諭 中里 敬 (全日制)
教諭 小暮 直子 (全日制)

【満了】

実習助手 田中 久枝 (全日制)
主事 熊木 友子 (全日制)

【転出】

教頭 芹川 真澄 高教一課
教諭 田中 明徳 本庄北高
教諭 中島 豊 本庄北高
教諭 小金沢喜範 本庄北高
教諭 森 康洋 行田工高
教諭 坂巻 博司 熊谷工高
教諭 浅見 宏子 秩父養育
教諭 和久丸 豊 妻沼高

【転入】

教頭 保泉 尚良 松山高定
教諭 宮嶋 敏 本庄北高
教諭 高橋 克彦 熊谷工高
教諭 田阪 登史 吹上高
教諭 吉野 雅文 妻沼高
教諭 内藤 昌義 本庄北高
教諭 齊藤 裕治 スボーン研
教諭 矢内 信雄 熊谷工高
教諭 根岸 祐子 川本高
教諭 栗原 敏光 熊谷市女
実習助手 高村 恭子 児玉白楊高
主任 橋本佐知子 熊谷女高

【更新】

非講師 小宮山綾子 (全日制)
非講師 大場 啓子 (定時制)
非講師 伊藤 貴子 (定時制)
主任 堤 由紀子 (全日制)
主任 石川 勝美 (定時制)

業務主任 石川 勝美 (定時制)
学校歯科医 濱坂 法恒 (全日制)

訃報

関口昌助先生

先生は旧制中学六回卒の大先輩であると共に、母校には昭和二十三年三月より昭和五十五年三月まで三十二年間にわたり教鞭を執られ、多くの後輩を育成なさいました。去る平成十一年三月十八日八十六歳の高齢でご逝去なさいました。

春山 直先生

先生は高校八回卒の同窓生であります。母校には昭和五十二年四月より昨年三月まで二十一年間勤務なされ、その間六十周年・七十周年には記念誌の編集に尽力なさいました。平成十一年三月五日ご逝去なさいました。

お二人の先生方のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(表3) 主な合格大学

国公立大学	合格数	進学数
1 群馬	2 (1)	2 (1)
2 埼玉	2 (1)	0 (0)
3 茨城	1 (1)	1 (1)
4 秋田	1 (1)	1 (1)
5 金沢	1 (0)	1 (0)
6 高崎経済	1 (0)	1 (0)
7 埼玉県立	1 (0)	0 (0)
国公立合計	9 (4)	6 (3)

私立大学	合格数	進学数
1 大東文化	41 (16)	22 (12)
2 城西	28 (13)	18 (9)
3 東洋	28 (11)	16 (8)
4 立正	23 (11)	13 (8)
5 日本	17 (5)	9 (5)
6 駒沢	14 (1)	3 (0)
7 法政	11 (2)	5 (2)
8 帝京	10 (8)	6 (6)
9 東海	7 (4)	5 (4)
10 東京国際	6 (4)	3 (3)
11 国土館	6 (1)	3 (0)
12 明治	5 (1)	5 (1)
13 跡見学園女子	5 (4)	3 (3)
14 獨協	5 (3)	3 (2)
15 亜細亜	5 (1)	2 (1)
16 関東学園	5 (2)	0 (0)
17 専修	4 (3)	3 (3)
18 埼玉工業	4 (2)	3 (2)
19 立教	4 (1)	3 (1)
20 東京工科	4 (3)	2 (2)
21 青山学院	4 (1)	2 (1)
22 中央	4 (1)	2 (1)
23 文教	4 (1)	2 (1)
24 拓殖	4 (2)	1 (0)
25 武蔵	4 (1)	1 (1)
26 神奈川	4 (0)	1 (0)
27 工学院	3 (2)	3 (2)
28 駿河台	3 (2)	3 (2)
29 神奈川工科	3 (1)	1 (1)
30 東京電機	3 (1)	1 (1)
31 明治学院	3 (0)	1 (0)
32 女子栄養	2 (2)	2 (2)
33 東京家政	2 (2)	2 (2)
34 足利工業	2 (0)	2 (0)
35 東京農業	2 (0)	2 (0)
36 聖学院	2 (2)	1 (1)
37 江戸川	2 (2)	1 (1)
38 武蔵野音楽	2 (2)	1 (1)
39 國學院	2 (1)	1 (1)
40 学習院	2 (0)	1 (0)
私立合計	331 (135)	172 (98)
4年生大学合計	340 (139)	178 (101)

()は現役

平成11年 進路状況 (4年制大学)

(表1) 平成11年度進路状況

卒業生数		人数	昨年比
		361	(-13)
大 学	国立	3	(+1)
	公立	0	(-1)
	私立	98	(0)
	合計	101	(0)
短 大	国立	0	(0)
	公立	3	(+2)
	私立	50	(+10)
	合計	53	(+12)
専門学校		83	(-7)
就 職	公務員	4	(+3)
	民間	8	(+2)
	合計	12	(+5)
進路決定者数		249	(+9)
浪人(未定)数		112	(-22)
大学進学率		42.7%	(+4.7)
進路決定率		69.0%	(+4.8)

(表2) 分野別進学数

4年制大学	
文・語学系	30 (22)
法・政治系	21 (11)
商経系	60 (27)
その他社会系	19 (10)
理学系	7 (4)
工学系	25 (16)
農学系	3 (1)
医学系	1 (0)
医療・看護系	1 (0)
薬学系	2 (1)
家政系	6 (5)
教育系	1 (0)
芸術系	4 (4)
その他	1 (0)
合 計	181 (101)

短期大学	
文・語学系	16
法・政治系	1
商経系	2
その他社会系	4
医療・看護系	10
福祉系	2
家政系	13
教育系	2
芸術系	3
合 計	53

専門学校	
工業技術系	5
医療・看護系	16
保育・福祉系	10
調理・美容系	13
商業実務系	8
家政系	5
文化・教養系	26
合 計	83

4年制大学、()は現役
短期大学、専門学校は現役のみ



今春の進路状況

進路指導部 飯塚 尚人

受験人口の減少に伴い、数字的には入り易くなった大学はあるが、中堅以上の難関大学は相変わらず厳しい今年の入試であった。

進路状況は表1の通りで、進路決定率が69.0%、大学(含

短大)進学率が42.7%と昨年に比べそれぞれ4.7%、4.8%の伸びをみせた。浪人(未定)数が22人減ったとは言え、まだ112人もおり、浪人数の減少(進学率の向上)を計ることが今後の進路指導部の課題であると言える。

進学では、国公立大学の合格数がここ数年10人前後で推

移している。三年の四月初旬は国公立希望が50人以上もいるが、成績上位者の多くが指定校推薦、一般推薦(四年制、短大あわせて70人が推薦で入学)へ流れてしまったり、また、最終的にはいろいろな受験型で同一学科への複数回チャレンジが可能な私立大へ志望変更している。実際、一月

のセンター試験では120人程の受験者のうち5教科受験(国公立対応)したのは10人たらずである。生徒だけでなく保護者にも「浪人はしたくない、させたくない」という強い気持ちで働いているようである。

今年もひとりでも多くの進路希望実現をめざして努力していきたい。



終身会費

納入者芳名 (卒年別)

(H10・12・1・11・3・31)

〔高1〕森田 久子	〔高4〕林 敏郎	〔高10〕小池 久	〔高18〕大久保和政	〔高19〕小竹美代子	〔高21〕奥野 雄三	〔高21〕星野 和子	〔高23〕吉岡 孝一	〔高23〕田部井春美	〔高24〕石野可奈子	〔高26〕植野由紀夫	〔高27〕清水真由美	〔高27〕金井 弘	〔高27〕鈴木美世子	〔高28〕高橋由美子	〔高29〕荒井 治雄	〔高30〕高田 寛之	〔高49〕岡田 昌悟	〔高50〕駒水 誠一	〔定19〕清水 誠一
〔高1〕森田 久子	〔高4〕林 敏郎	〔高10〕小池 久	〔高18〕大久保和政	〔高19〕小竹美代子	〔高21〕奥野 雄三	〔高21〕星野 和子	〔高23〕吉岡 孝一	〔高23〕田部井春美	〔高24〕石野可奈子	〔高26〕植野由紀夫	〔高27〕清水真由美	〔高27〕金井 弘	〔高27〕鈴木美世子	〔高28〕高橋由美子	〔高29〕荒井 治雄	〔高30〕高田 寛之	〔高49〕岡田 昌悟	〔高50〕駒水 誠一	〔定19〕清水 誠一
〔高1〕森田 久子	〔高4〕林 敏郎	〔高10〕小池 久	〔高18〕大久保和政	〔高19〕小竹美代子	〔高21〕奥野 雄三	〔高21〕星野 和子	〔高23〕吉岡 孝一	〔高23〕田部井春美	〔高24〕石野可奈子	〔高26〕植野由紀夫	〔高27〕清水真由美	〔高27〕金井 弘	〔高27〕鈴木美世子	〔高28〕高橋由美子	〔高29〕荒井 治雄	〔高30〕高田 寛之	〔高49〕岡田 昌悟	〔高50〕駒水 誠一	〔定19〕清水 誠一

寄付者芳名 (卒年別)

(H10・12・1・11・3・31)

〔高4〕林 千代

平成10年度
年会費納入者芳名
(年度別・敬称略)

(H10・12・1・11・3・31)

〔高49〕清水 歩	〔高28〕秋山 欣彦	〔高21〕奥野 雄三	〔高21〕星野 和子	〔高23〕吉岡 孝一	〔高23〕田部井春美	〔高24〕石野可奈子	〔高26〕植野由紀夫	〔高27〕清水真由美	〔高27〕金井 弘	〔高27〕鈴木美世子	〔高28〕高橋由美子	〔高29〕荒井 治雄	〔高30〕高田 寛之	〔高49〕岡田 昌悟	〔高50〕駒水 誠一	〔定19〕清水 誠一
〔高49〕清水 歩	〔高28〕秋山 欣彦	〔高21〕奥野 雄三	〔高21〕星野 和子	〔高23〕吉岡 孝一	〔高23〕田部井春美	〔高24〕石野可奈子	〔高26〕植野由紀夫	〔高27〕清水真由美	〔高27〕金井 弘	〔高27〕鈴木美世子	〔高28〕高橋由美子	〔高29〕荒井 治雄	〔高30〕高田 寛之	〔高49〕岡田 昌悟	〔高50〕駒水 誠一	〔定19〕清水 誠一
〔高49〕清水 歩	〔高28〕秋山 欣彦	〔高21〕奥野 雄三	〔高21〕星野 和子	〔高23〕吉岡 孝一	〔高23〕田部井春美	〔高24〕石野可奈子	〔高26〕植野由紀夫	〔高27〕清水真由美	〔高27〕金井 弘	〔高27〕鈴木美世子	〔高28〕高橋由美子	〔高29〕荒井 治雄	〔高30〕高田 寛之	〔高49〕岡田 昌悟	〔高50〕駒水 誠一	〔定19〕清水 誠一

会費納入についてお願い

親愛なる会員の皆様、私達は母校への寄与と、基礎財源は年会費又は終身会費であります。未納の方の御協力をお願い申し上げます。なお、諸般の事情により二十数年振りに会費改定を総会に諮る事に役員会で決定致しました。具体的には年会費は現行壹千円が平成十二年度より貳千円になる予定であります。終身会費に就きましては、二十一世紀初頭より改定の予定であります。ご理解御協力をお願い申し上げます。

本高同窓会役員一同

平成10年度収支決算書(案)

自平成10年4月1日～至平成11年3月31日

収入の部

(単位 円)

科 目	決 算 額	予 算 額	比較増減
入 会 金	768,000	768,000	0
終 身 会 費	1,820,000	500,000	1,320,000
年 会 費	181,000	100,000	81,000
寄 付 金	11,000	10,000	1,000
雑 収 入	6,903	100,000	△ 93,097
前年度繰越金	5,525,780	5,525,780	0
合 計	8,312,683	7,003,780	1,308,903

支出の部

科 目	決 算 額	予 算 額	比較増減
総 会 費	279,448	350,000	△70,552
組 織 編 成 費	893,624	1,100,000	△206,376
記 念 品 費	245,700	249,600	△3,900
母 校 助 成 金	50,000	50,000	0
会 議 費	20,000	50,000	△30,000
通 信 費	1,484,255	2,200,000	△715,745
交 際 費	45,940	150,000	△104,060
中高連絡会費	0	200,000	△200,000
事 務 雑 費	721,589	1,000,000	△278,411
育英資金支給	50,000	50,000	0
80周年記念誌	0	1,000,000	△1,000,000
予 備 費	0	604,180	△604,180
合 計	3,790,556	7,003,780	△3,213,224

依って次期繰越金は収入合計8,312,683円―支出合計3,790,556円＝4,522,127円である。

財産目録(案)

平成11年3月31日 (単位 円)

科 目	金 額
定期預金(積立金)	1,002,000
定期預金(積立金)	11,012,861
定額預金(積立金)	5,145,000
定額預金	* 2,662,000
定額預金	* 1,006,000
普通預金(あさひ銀行)	* 721,627
普通預金(あさひ銀行)	* 92,462
当座預金	* 25,962
現金	* 1,958
郵便局振替口座	* 12,118
合 計	21,681,988

*の合計が繰越金である。
(4,522,127円)

会計監査報告

平成10年度の監査を行いましたところ諸帳簿一切過誤なく、正当であることを認めます。

平成11年5月14日

監事 江 原 清 吉
監事 竹 内 恵美子

■納入方法

会費納入の際には二重納付を避けるためにも必ずご送付申し上げた振込用紙をご使用下さい。
なお念のため加入者名・口座番号をお知らせ致します。
加入者名 埼玉県立本庄高等学校同窓会
口座番号 〇〇一三〇一六一八七〇二〇

平成10年度事業報告

10年4月 母校入学式出席	5月 会計監査	6月(1)会報二七号発行	(2)通常総会開催	7月 部活動の応援	8月 高一回卒、記念同期会開催準備	9月(1)母校文化祭に出席	(2)高一回卒、卒業五十年記念事業開催	10年 八十周年誌用記事	11月 収集	11年1月 会報二八号発行	2月(1)支部長会議及び新年会の開催	(2)育英金及び母校助成金の贈呈	(3)高一回卒作成の記念誌「柏朋」の贈呈	3月(1)新会員入会式開催	(2)新幹事委嘱状授与	(3)母校卒業式へ出席	※毎月定例役員会の開催	平成十一年度事業計画案	11年4月 母校入学式出席	5月 会計監査	6月(1)会報二九号発行	(2)通常総会開催	7月 部活動の応援	8月 記念誌委員会開催	9月 母校柏樹祭見学	10月 中高連絡会の開催	11月 記念講演会の開催	12月 会報三十号発行	12年1月 育英金及び母校助成金の贈呈	2月 支部長会議及び新年会の開催	3月(1)新会員入会式開催	(2)新幹事委嘱状授与	(3)母校卒業式へ出席	※毎月定例役員会の開催
---------------	---------	--------------	-----------	-----------	-------------------	---------------	---------------------	--------------	--------	---------------	--------------------	------------------	----------------------	---------------	-------------	-------------	-------------	-------------	---------------	---------	--------------	-----------	-----------	-------------	------------	--------------	--------------	-------------	---------------------	------------------	---------------	-------------	-------------	-------------